

ほしぞらさんぽに出かけましょう

やっと例年並みに寒くなってきました。夜空がすみ切ってお星様がキラキラかがやき、あなたをほしぞらさんぽにさそっています

月明かりはじゃまだなあ～

12月は前半の1週間と月末の2週間がほしぞらさんぽに適しています。なぜ？ それはね、あなたがほしぞらさんぽに出かける時間帯に、お月様がかくれてくれているからです。

夏から10月ごろまでの月は、南の低い空をえんりょ(?)しながら通っていくので、月の反対側の空ではあるていどは星が見えていますが、冬の月は東より北の地平から出て、天の高いところ（天頂の近く）を通っていきますから、ほしぞらさんぽにはおおいにじゃまになります。だから月がかくれてくれる時間帯を調べておかないとほしぞらさんぽができません。

スマホのアプリで「天体観測可能時間」を調べると、「月出」「月没」の時刻が分かりますから、月がじゃまするかどうかを調べることができますよ。

12月の惑星 金星、土星、木星

星座早見盤にない明るい星が見えていますね。夕方はまだ明るい空で、肉眼でかんたんに見つかる一番明るい星が金星です。その金星は12月には-4.3等と、周りの星と比べて格段に明るく輝き、次第に地平からの高度が高くなっていきます。

金星は地球よりも太陽に近い惑星ですから太陽の近くにいることになりますね。夕方だったら日没直後の西の空を見るのですよ。空が明るいうちに写真に撮ってみましょう。ふつうにシャッターを切れば、夕景といっしょに金星が写ります。

そして、西の空にあるちょうど1等星ぐらいに明るい星が土星です。もう一つ、南東に見える明るい星は木星です。惑星ですから星座早見盤にはありませんね。全天星図で確かめておきましょう。

**ふたご座流星群**

12月13日の夜にふたご座流星群が極大（流星のピーク）と予報されています。月齢13の明るい月がありますから空は明るくて流星群を見るのにはじゃまになりますが、明るい流星が飛ぶことがある流星群ですので期待しましょう。

こぐま座流星群

12月22日の午後9時ごろに極大との予報です。月は夜半に出るので、じゃまになりません。時にまとまって流れることもある流星群ですから、鑑賞できるかもね。

12月の星座

冬の星座の王さま＝オリオン座はまだ東の低い空ですから1か月先に期待しましょう。

おうし座の1等星**アルデバラン**や**散開星団すばる**（公式の名前は**プレアデス星団**）、そして**ぎょしゃ座**の1等星**カペラ**が上っていますね。散開星団すばるは双眼鏡で見るのが最も美しいといわれます。望遠鏡で見るとはみ出してしまっていて、あのかわいい形が見えなくなってしまうからです。

12月の第1週だと天頂付近はまだ秋の星座です。**ペガスス座の四辺形**や**アンドロメダ座**とその**大銀河**（250万光年もの遠くの光が双眼鏡で見えています）、北東の空には**カシオペア座**のM字の5つの星などが見えています。

カシオペア座が見やすい高さにいるので、カシオペア座を使って伊勢原の空でも北極星が見つかるでしょう（右の図を参考



に)。

もっと西の低い空を見ると、なんと夏の大三角がまだ見えています。**こと座のベガ**、**はくちょう座のデネブ**、**わし座のアルタイル**を「夏の星だよね」と思っている人は「？ あれは何？」って迷うことでしょうね。夏の大三角は天の北極に近いので、1年のうち7ヶ月ぐらいは宵のうちに见ることができるのです。

オリオン座

12月も第4週に入ると星空は少し変わりますよ。午後7時には**オリオン座**が東の空にその全体を見せていることでしょう。東の空にいるオリオン座は横に倒れているように見えています。これを覚

えておいて、2月中ごろのオリオン座の見え方と比べてみましょう。

もう一つ。地平から上がったばかりの**オリオン**の**三ツ星**の位置は、そこが真東になります。あなたの観察場所から真東になる建物など方角の目印を覚えておきましょう。



